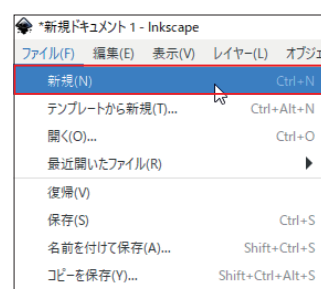


05

起動してから 新規ドキュメントを作成する

Inkscape では、同時に複数のドキュメントを開いて作業できます。起動後の新規ドキュメントの作成方法を説明します。

▶ [新規] コマンドで作成する

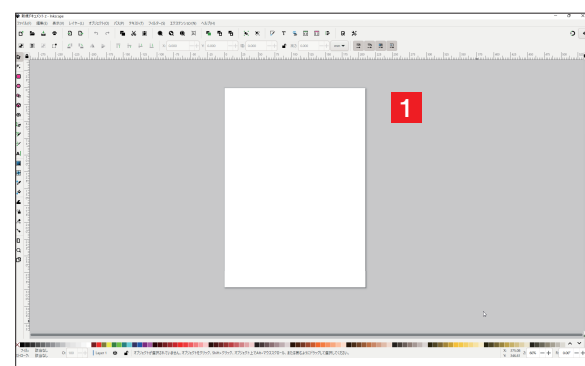


1 [新規] を選択する

[ファイル] メニューから [新規] を選択します **1**。

CHECK

コマンドバーの をクリックしてもかまいません。



2 新規ドキュメントが作成される

新規ドキュメントが、新しい別ウィンドウで作成されます **1**。

POINT

[ファイル] メニューの [テンプレートから新規] を選択すると、[テンプレートから作成] ウィンドウが開き、さまざまなテンプレートを選択して最適なサイズの新規ドキュメントを作成できます。



06

ページサイズを変更する

ドキュメントのページサイズは、新規ドキュメント作成後に変更できます。Welcome 画面で用紙サイズを設定できない場合は、ページサイズを設定してから作業してください。

サンプルファイル 00-06.svg

▶ ドキュメントのプロパティで変更する



1 [ドキュメントのプロパティ] を選択する

[ファイル] メニューから [ドキュメントのプロパティ] を選択します **1**。

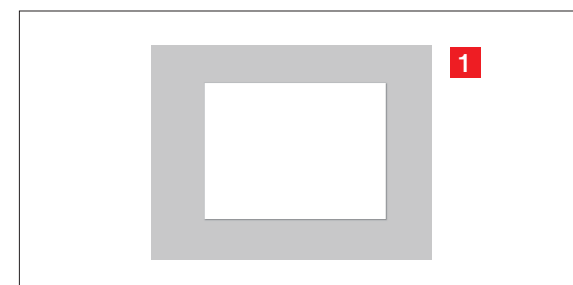
CHECK

コマンドバーの をクリックしてもかまいません。



2 単位とサイズを変更する

[フォーマット] で単位を設定します（ここでは「px」**1**）。[幅]と[高さ]をそれぞれ入力します（ここでは「1024」「768」）**2**。[フォーマット] をクリックすれば、リスト表示されたページサイズを選択するだけで変更できます。



3 指定したサイズに変更される

指定したサイズに変更されます **1**。

02

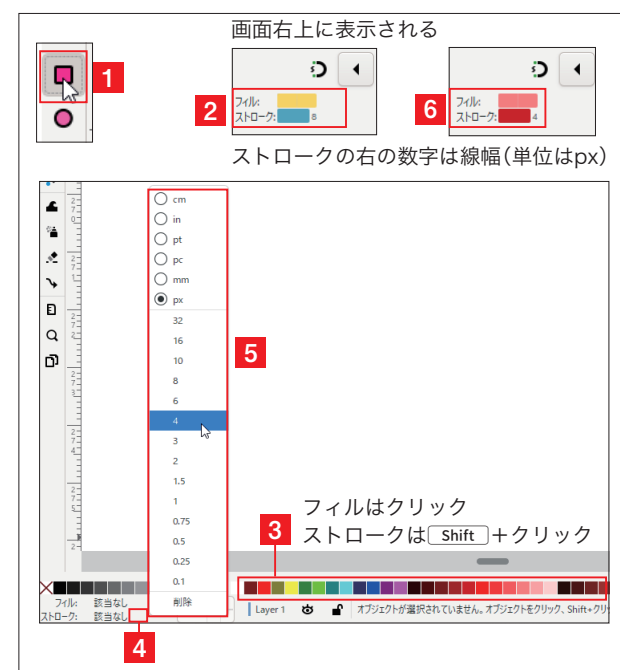
作成前に色を設定する

矩形ツールなど、図形の作成ツールで作成したオブジェクトの[フィル] (塗り潰し) と[ストローク] (線) のカラーは、直前に使用したスタイルが適用されます。カラーパレットを使い、描画前に指定することもできます。また、ツールごとに常に使うカラースタイルを設定しておくこともできます。

サンプルファイル ▶ 01-02.svg

▶ 作業前の色設定

図形作成前に色を設定するにはカラーパレットを使用してください。



作成前の色の設定

図形の作成ツールを選択します (ここでは矩形ツール) **1**。画面右上に、作成するオブジェクトに適用されるカラースタイル (初期設定では、最後に使用したカラー) が表示されます **2**。[フィル] の色を変更するにはカラーパレットの色をクリック、[ストローク] は **Shift** キーを押しながらクリックします **3**。線幅は、スタイルインジケータのストロークの右側を右クリックし **4**、ポップアップメニューを表示し、単位と数値を指定します **5**。ツールコントロールバーの表示が変わったことを確認し、図形を作成してください。不透明度の設定はできません。最後に使用したカラースタイルに [フィル] [ストローク] にアルファが適用されている場合、そのままアルファの設定は残ります。アルファを消したい場合はスタイルインジケータの [フィル] または [ストローク] を右クリックして、メニューから [フィルを不透明に] / [ストロークを不透明に] を選択してください。

独自スタイルの設定

ツールによって常に同じカラースタイルで作成した場合は、独自スタイルを設定できます。元となるカラースタイルを適用したオブジェクトを作成して選択します **1**。ツールボックスで設定したいツール (ここでは矩形ツール) をダブルクリックして **2**、[環境設定] ダイアログを開きます **3**。[このツール独自のスタイル] にチェックを入れ、[選択オブジェクトから取り込み] をクリックします **4**。選択したオブジェクトのカラーが取り込まれ、次の作成からは常にこのカラーが適用されます。



03

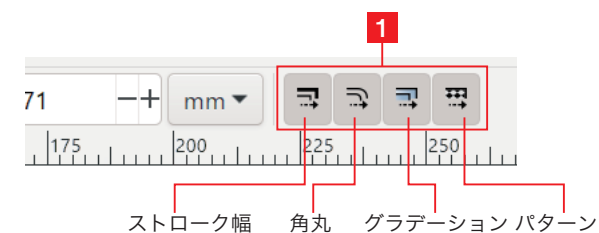
サイズ変更時にほかの要素も変更させるかを設定する

選択ツールでオブジェクトのサイズを変更したり、回転させたりする際、ストローク幅 (線の幅) / 角丸の大きさ / グラデーション / パターンも同時に変形させるかどうかを選ぶことができます。

サンプルファイル ▶ 01-03.svg

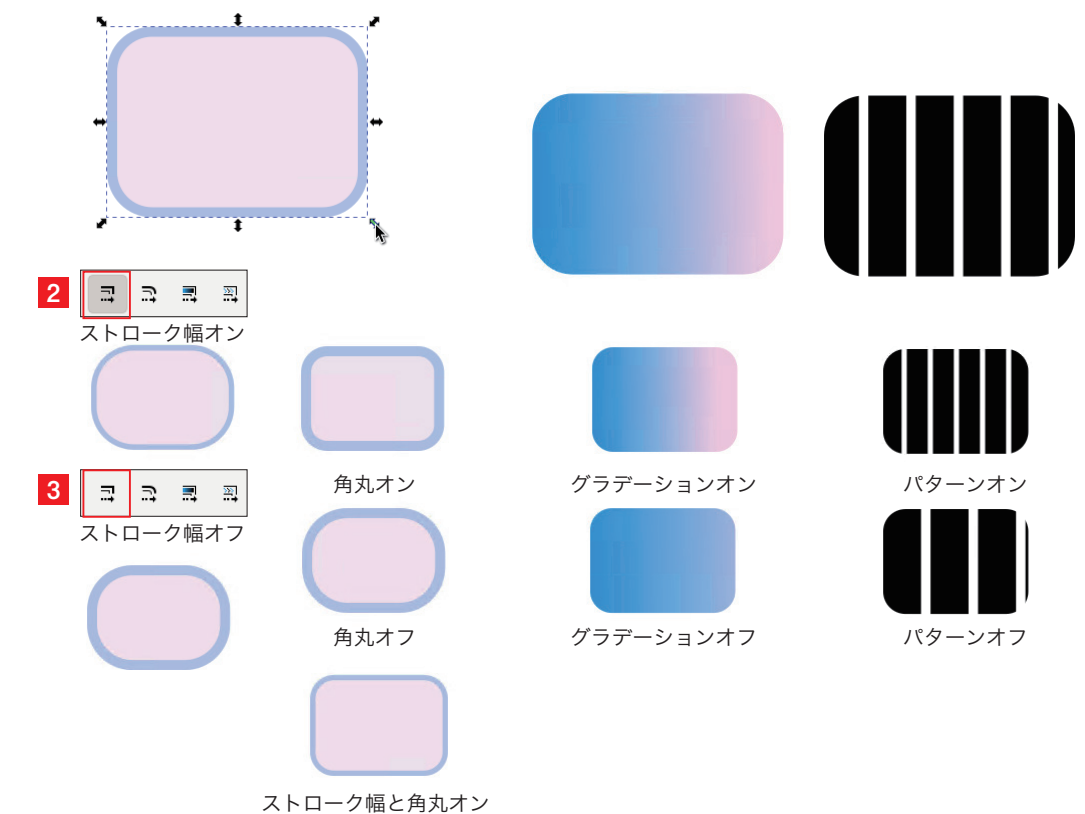
▶ 選択ツールのツールコントロールバーで設定

選択ツールを選択し、ツールコントロールバー右端の 4 つのボタンで設定します。



ボタンで設定してからリサイズ

オブジェクトの選択ツールを選び、ツールコントロールバー右端のボタン **1** で必要なものをオン/オフします。[ストローク幅] をオンにすれば **2**、オブジェクトは線幅をも同時に変形し、オフにすれば **3** 線幅は元のままとまります。サンプルファイルの上の図形を使って、設定を変更して変形してみてください。



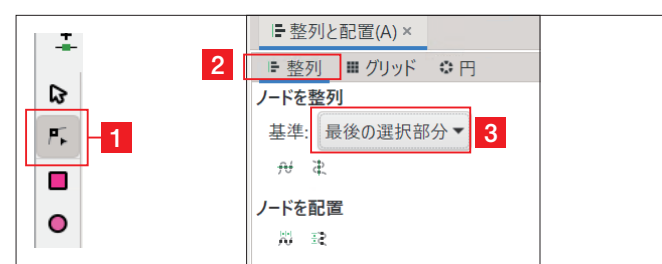
22

オブジェクトのノードを
整列／配置する

ノードの整列／配置は、オブジェクトと同じ[整列と配置]ダイアログで行えます。ノードツールを選択すると、ノード用の表示に変わります。

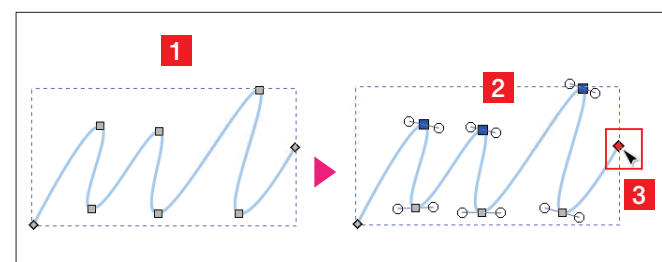
サンプルファイル▶ 02-22.svg

▶ ノードを[整列と配置]ダイアログで配置する



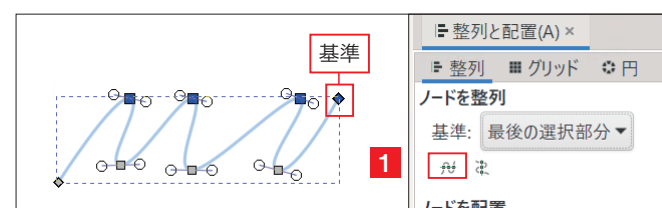
1 ノード用の整列と配置を設定する

ノードツールを選び1、[整列と配置]ダイアログの[整列]タブを表示させます2。内容がノード用になります。ここでは基準に[最後の選択部分]を指定します3。



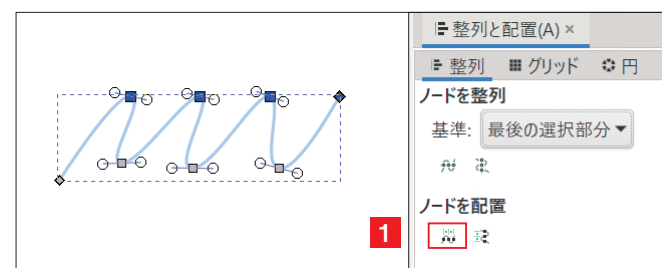
2 整列させるノードを選択する

パスをクリックしてノードを表示し1、整列させるノードを選択します2。ここでは最後に右端のノードをクリックして基準となる最後の選択部分にしています3。



3 水平に整列する

[共通の水平線上に整列]をクリックすると1、選択したノードが水平に整列します。この場合の基準は最後にクリックしたノードです。



4 等間隔に配置する

続けて[水平に配置]をクリックすると1、選択したノードが等間隔に並びます。

23

オブジェクトをグリッドを
利用して整列／配置する

[整列と配置]ダイアログの[グリッド]を使うと、オブジェクトを行と列で整列させられます。表計算ソフトのセルにオブジェクトをひとつずつ入れて並べるようなイメージです。

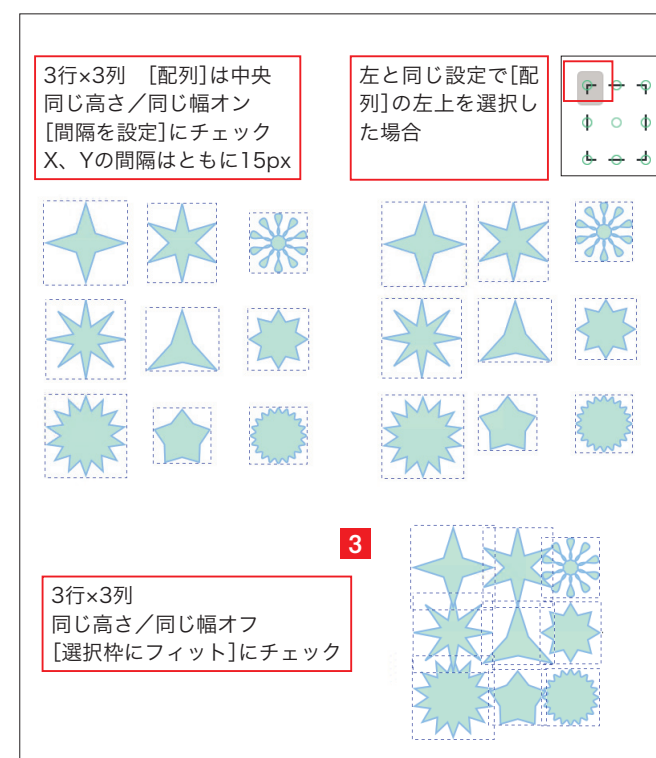
サンプルファイル▶ 02-23.svg

▶ [整列と配置]ダイアログの[グリッド]で配置する



1 [グリッド]タブで行数と列数を指定する

選択ツール1でオブジェクトを選択します。[整列と配置]ダイアログの[グリッド]タブを選択し、[行数]と[列数]に数値を入力します2。オブジェクト数に合わない数値を入れた場合は自動的に補正されます。次に[配列]で中央を選択します3。これはグリッドのマスの内部でのオブジェクトの位置となります。



2 間隔を設定して配列する

[間隔を設定]を選んで間隔を入力し1、[配列]をクリックします2。[選択枠にフィット]を選んだ場合、オブジェクト同士が接するように配列します3。



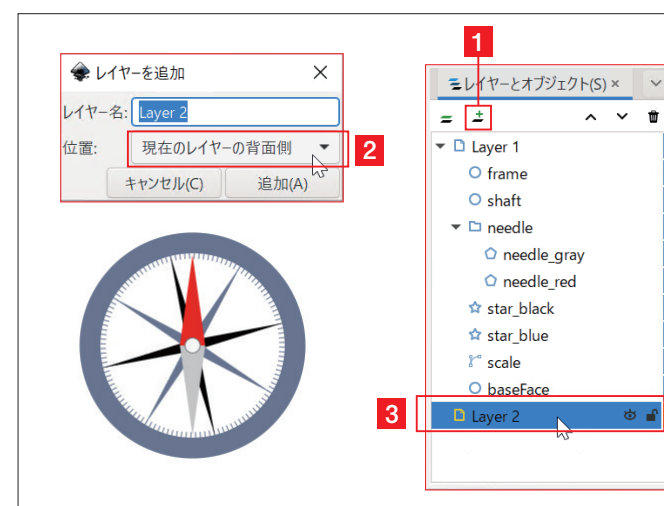
05

選択レイヤーに
オブジェクトを作成する

【レイヤーとオブジェクト】ダイアログで、レイヤーを選択してからオブジェクトを作成すると、オブジェクトは選択したレイヤー内に配置されます。

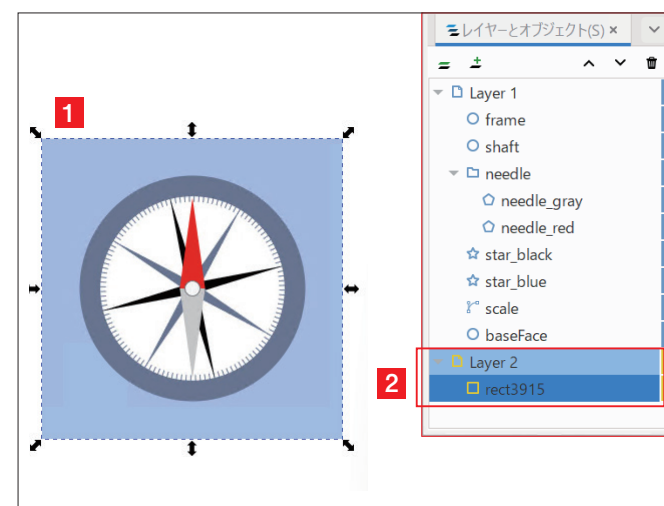
サンプルファイル ▶ 03-05.svg

▶ レイヤーを指定してオブジェクトを作成する



1 レイヤーを選択する

左の例は特にレイヤーを意識せず作業した後、【レイヤーとオブジェクト】ダイアログで【レイヤーを追加】をクリックし¹、【現在のレイヤーの背面側】を指定して²、作成したレイヤーを選択した状態³です。最初からあった【Layer1】と同じ階層に【Layer2】があります。



2 オブジェクトを作成する

オブジェクトを作成します¹。ダイアログを見ると、選択していたレイヤーの下に配置されていることが確認できます²。

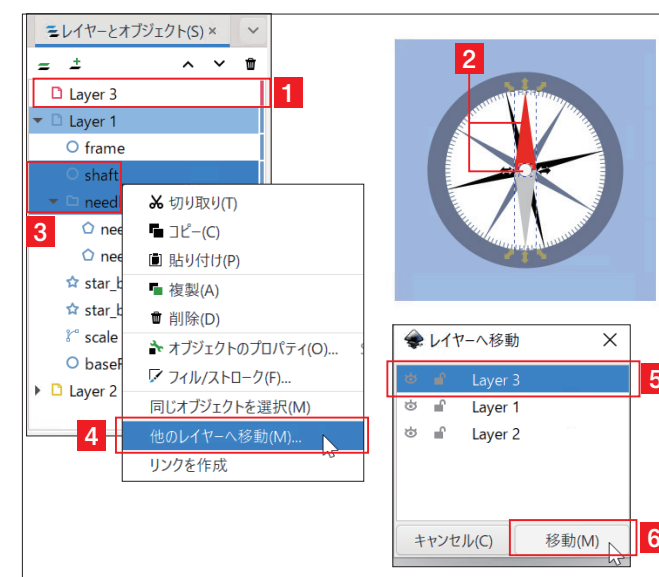
06

オブジェクトを
別のレイヤーに移動する

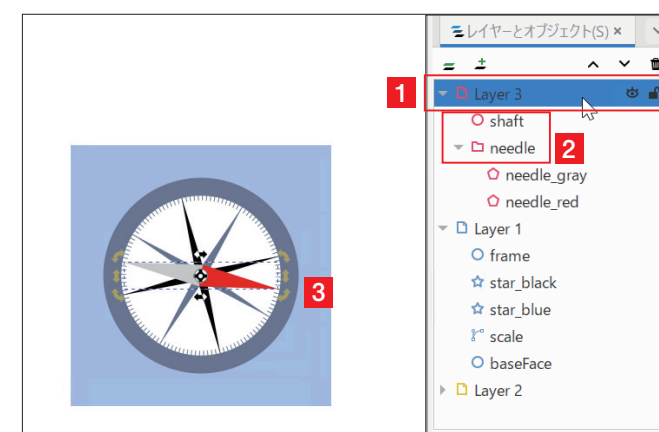
階層を超えたオブジェクトの移動方法は、ダイアログでの右クリックして表示されるメニューからのコマンドと、ドラッグでの移動があります。ここではコマンドを紹介します。

サンプルファイル ▶ 03-06.svg

▶ オブジェクトを別レイヤーに移動する

1 新規レイヤーに
オブジェクトを移動する

【レイヤーとオブジェクト】ダイアログで【Layer1】の前面に新規レイヤー【Layer3】を作成しておきます¹。キャンバスで磁石の針とシャフトを選択します²。【レイヤーとオブジェクト】ダイアログでは、選択したオブジェクトの名称がハイライト表示されるので³、右クリックして表示されたメニューから【他のレイヤーへ移動】を選びます⁴。【レイヤーへ移動】ウィンドウで移動先に【Layer3】を選び⁵、【移動】をクリックします⁶。

2 移動先レイヤーを
確認する

【レイヤーとオブジェクト】ダイアログで移動先のレイヤーである【Layer3】を選択し¹、選択したオブジェクトが移動していることを確認します²。オブジェクトは【Layer3】のオブジェクトとして編集できます(ここでは回転させている)³。

23

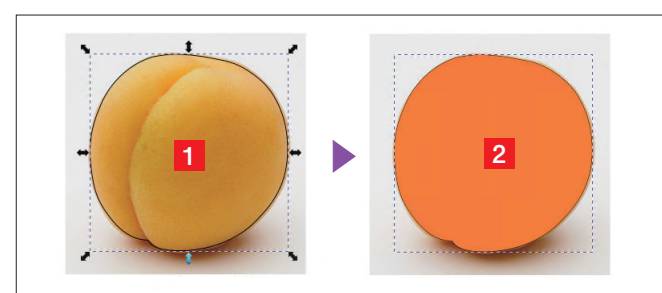
メッシュグラデーションに
カラーを取り込む

ここでは非常にざっくりとカラーを取り込みますが、メッシュをじっくり調整したい場合は少ない行と列ではじめて、少しずつノードを増やしてください。

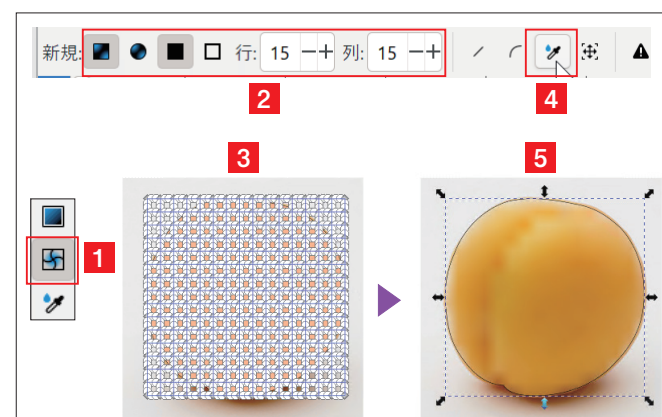
サンプルファイル ▶ 04-23.svg

▶ メッシュグラデーションで背面画像のカラーを取り込む

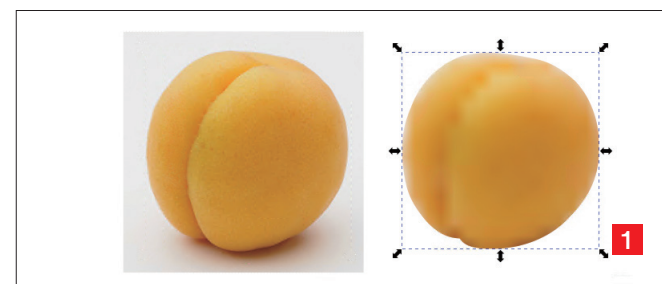
パスオブジェクトに、背面の画像のグラデーションを取り込みます。

1 パスオブジェクトで
形をとる

画像をインポートしてペンツールなどで輪廓となるパスオブジェクトを作成し**1**、適当なカラーを[フィル]に適用します**2**。

2 多めの行と列で
カラーを取り込む

メッシュグラデーションツールを選び**1**、[メッシュグラデーションを作成] [フィル] を選択し、[行] を「15」、[列] を「15」に設定して**2**、パスオブジェクトをダブルクリックしてグラデーションを作成します**3**。続けて **Ctrl** + **A** でノードをすべて選択し、ツールコントロールバーの をクリックして下の画像のカラーを取り込み**4**、選択ツールを選択してメッシュの選択を解除します**5**。



3 確認する

[ストローク] のカラーを [なし] 設定にして、パスを移動させて結果を確認します**1**。

24

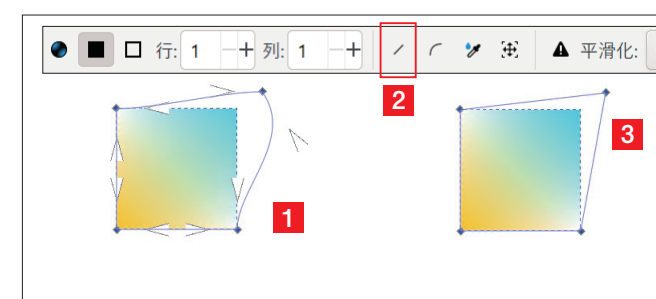
メッシュグラデーションの
オプション設定

メッシュグラデーションツールは、ツールコントロールバーの設定で、円錐グラデーションを作成したり、メッシュのノードの種類を変更できます。

サンプルファイル ▶ 04-24.svg

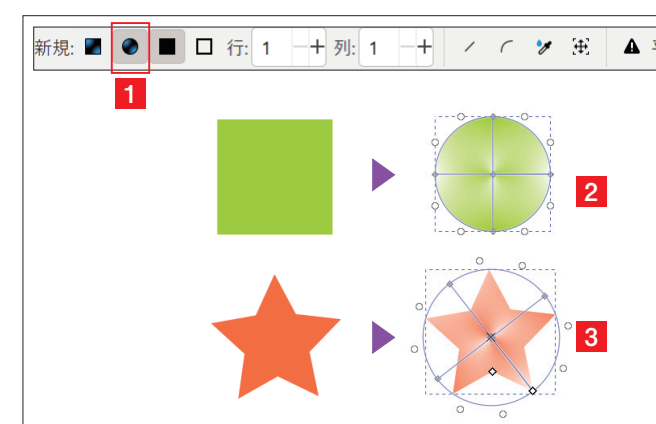
▶ ツールコントロールバーの設定

対象となるオブジェクトを選択し、メッシュグラデーションツールを選択してください。



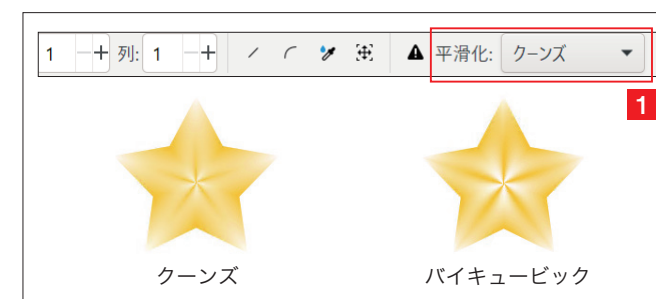
ベジエと直線の切り替え

メッシュグラデーションツールでドラッグして全体を囲むか、キーボードの **Ctrl** + **A** を押して、メッシュグラデーションのすべてのノードを選択します**1**。ツールコントロールバーで をクリックして**2**、ベジエを直線に切り替えます**3**。再び をクリックしてベジエに戻してみます。



円錐グラデーション

ツールコントロールバーの円錐グラデーションは**1**、円錐状のグラデーションを作成できます。オブジェクトが矩形の場合、内接する円 / 楕円のグラデーションとなり**2**、円の外側はクリッピングされます。多角形で外接する円のグラデーションとなります**3**。



平滑化

ツールコントロールバーの[平滑化]は**1**、メッシュによるグラデーションのかかり方を設定します。オブジェクトの形状やメッシュの状態によってはかなり違いが出ます。

クーンズ

バイキュービック

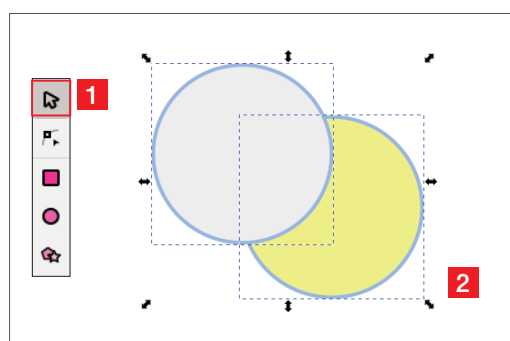
22

複数のパスを統合する

[パス]メニューの[統合]を使うと、複数のパスを統合してひとつのパスにできます。

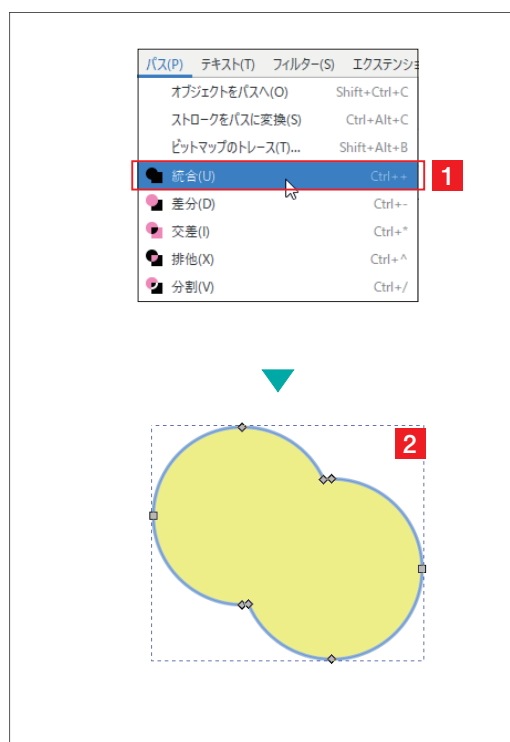
サンプルファイル 05-22.svg

▶ [パス]メニューの[統合]を使う



1 選択ツールで選択する

選択ツールを選択します¹。統合する複数のオブジェクトを選択します²。



2 [パス]メニュー→[統合]を選択する

[パス]メニュー→[統合]を選択します¹。重なった全体の形状のひとつのパスオブジェクトとなります。ノードツールで選択すると、ひとつのパスになっていることがわかります²。

CHECK

最背面にあるオブジェクトに統合されます。そのため、フィルやストロークの色などは、最背面のオブジェクトの設定となります。

POINT

シェイプオブジェクトでも統合できます。ただしシェイプとしての属性は失われ、統合されたパスオブジェクトとなります。

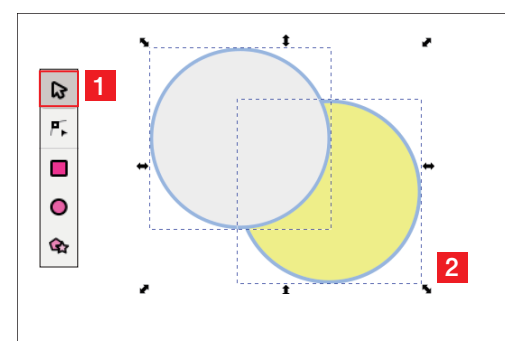
23

前面のパスで背面のパスを切り抜く

[パス]メニューの[差分]を使うと、重なった複数のパスから前面の重なった部分を削除したパスを作成できます。

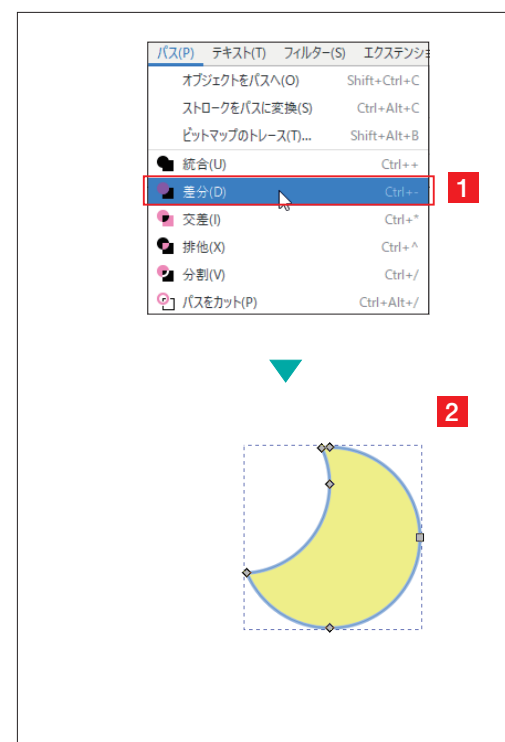
サンプルファイル 05-23.svg

▶ [パス]メニューの[差分]を使う



1 選択ツールで選択する

選択ツールを選択します¹。重なる複数のオブジェクトを選択します²。



2 [パス]メニュー→[差分]を選択する

[パス]メニュー→[差分]を選択します¹。前面に重なった部分が最背面のオブジェクトから削除されたひとつのパスオブジェクトとなります。ノードツールで選択すると、削除された形状のパスになっていることがわかります²。

CHECK

フィルやストロークの色などは、最背面のオブジェクトの設定となります。

POINT

シェイプオブジェクトにも適用できます。ただしシェイプとしての属性は失われ、統合されたパスオブジェクトとなります。

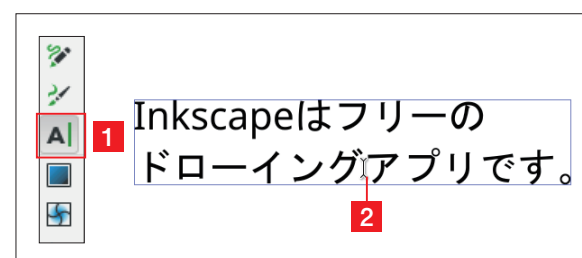
02

文字を選択して修正する

テキストオブジェクトに入力した文字は、いつでも修正できます。ここでは、テキストオブジェクトの一部の文字を選択して、ほかの文字に修正します。

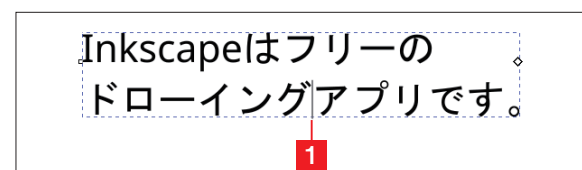
サンプルファイル▶ 06-02.svg

▶ テキストツールで修正する



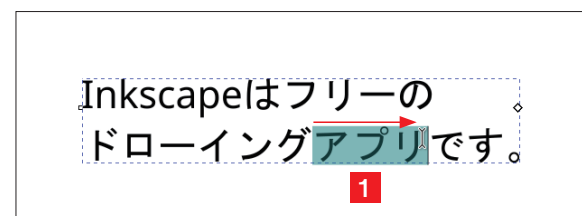
1 基点をクリックする

ツールボックスでテキストツールを選択します **1**。テキストオブジェクトをクリックします **2**。



2 カーソルが点滅する

クリックした位置でカーソルが点滅します。文字を入力します **1**。このまま、文字を追加したり削除したりできます。

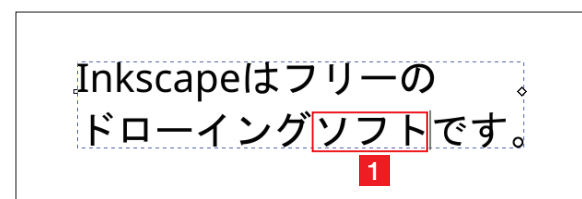


3 修正箇所を選択する

テキストオブジェクトを選択した状態で、文字上をドラッグすると文字が選択されハイライト表示されます **1**。[Shift] キーを押しながら矢印キーを押しても選択できます。

CHECK

テキストオブジェクトの選択は、文字修正以外に、フォントやフォントサイズなどを設定するための基本となります。



4 修正文字を入力する

文字を入力すると、選択した文字が置換されて入力されます **1**。

03

フォントを設定する

テキストオブジェクトの文字のフォント(書体)は、文字ごとに設定できます。

サンプルファイル▶ 06-03.svg

▶ フォントの設定

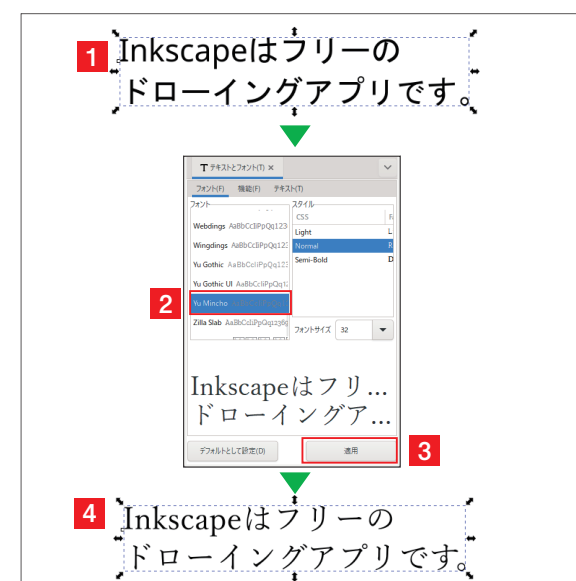


一部の文字を選択して設定

テキストツールで、フォントを設定する文字を選択します **1**。ツールコントロールバーの左に現在のフォント名が表示されるので **2**、▼をクリックしてフォントを選択します(ここでは [Barlow Condensed]) **3**。フォントが変更されます **4**。

POINT

[テキストとフォント] ダイアログでも設定できます。[テキストとフォント] ダイアログは、[テキスト] メニュー→[テキストとフォント] で表示できます。



テキストオブジェクト全体に設定

選択ツールを選択し、テキストオブジェクトを選択します **1**。[テキストとフォント] ダイアログを表示し、[フォント] からフォントを選択し(ここでは [Yu Mincho] [Normal]) **2**、[適用] をクリックします **3**。選択したオブジェクトのフォントがすべて変更されます **4**。

POINT

欧文フォントを選択すると、欧文部分だけが変更されます。

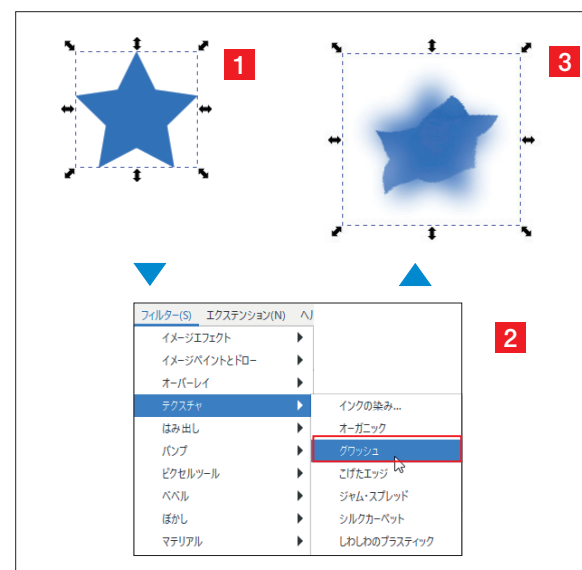
01

フィルターの基本

フィルターは、パスエフェクトと同様に、オブジェクトの外観を変える機能です。パスエフェクトは、パスオブジェクトが対象ですが、フィルターは、どんなオブジェクトにも適用できます。配置した画像オブジェクトやテキストオブジェクトでも大丈夫です。

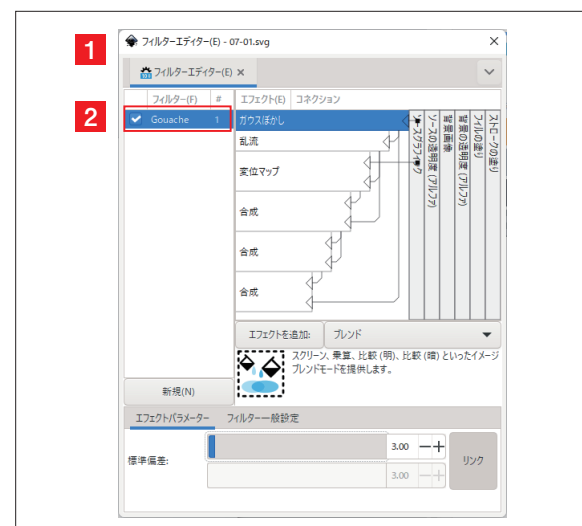
サンプルファイル ▶ 07-01.svg

▶ フィルターとは



フィルタ適用の基本

対象となるオブジェクトを選択し**1**、[フィルター] メニューから、適用するフィルタ（ここでは [グワッシュ]）を選択します**2**。オブジェクトにフィルターが適用され、見た目が変わります**3**。適用したフィルターを除去すれば、元のオブジェクトに戻せます。



[フィルターエディター] ダイアログでフィルターを管理

[フィルター] メニュー→[フィルターエディター] を選択すると、[フィルターエディター] ダイアログが表示されます**1**。このダイアログで、開いているドキュメントに適用されているフィルターがすべて表示され**2**、オブジェクトごとの適用のオンオフ、適用の数値設定などを管理できます。

POINT

複数のオブジェクトを選択して、フィルターを適用すると、オブジェクトごとに個別のフィルターが表示されます。

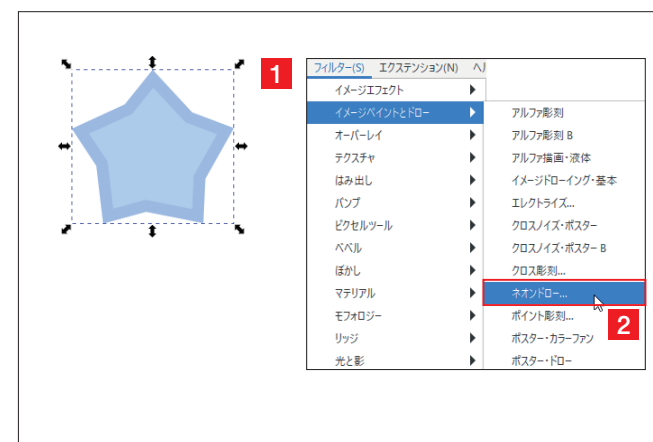
02

フィルターを適用する

フィルターは、[フィルター]メニューから機能を選択して適用します。機能によっては設定ウィンドウが表示されるものがあります。また、複数のフィルターを適用することができます。

サンプルファイル ▶ 07-02.svg

▶ ふたつのフィルターを適用する



1 適用するフィルターを選択する

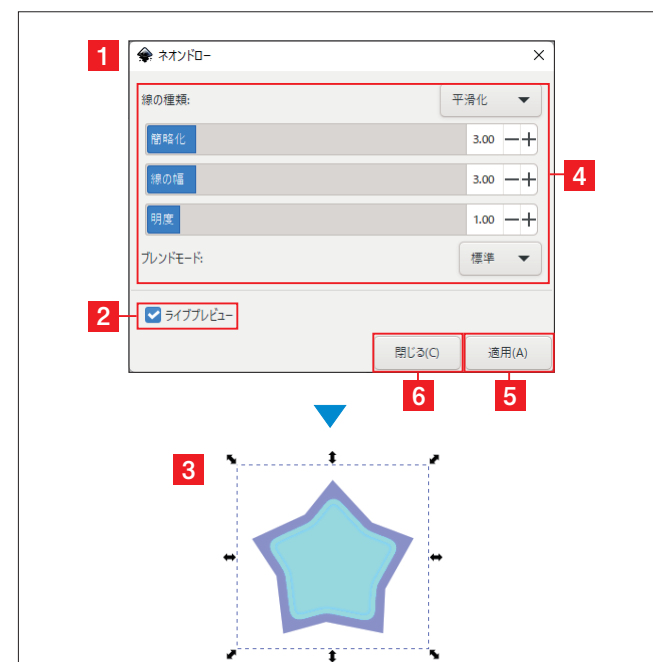
オブジェクトを選択し**1**、[フィルター] メニューから適用するフィルター（ここでは [ネオンドロー]）を選択します**2**。

CHECK

[フィルター] メニューのフィルター名の末尾に「...」が表示されるフィルターは、設定ウィンドウが表示されます。

2 設定ウィンドウで設定し[適用]をクリックする

[ネオンドロー] ウィンドウが表示されます**1**。[ライブプレビュー] にチェックを入れると**2**、オブジェクトの見た目がフィルターを適用した状態でプレビュー表示されます**3**。必要に応じて、プレビューを見ながら設定値を変更してください**4**。今回はそのまま変更せずに、[適用] をクリックし**5**、[閉じる] をクリックしてウィンドウを閉じます**6**。



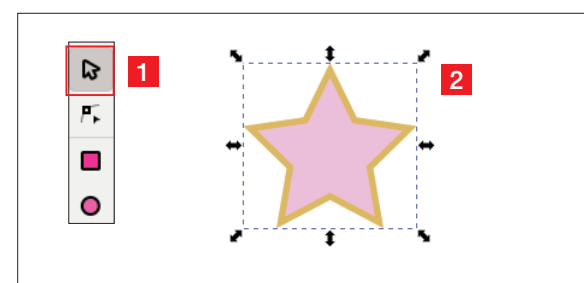
02

クローンを作成する

クローンは、[編集]メニュー→[クローン]→[クローンを作成]を選択して作成します。

サンプルファイル ▶ 09-02.svg

▶ クローンを作成する



1 選択ツールでオブジェクトを選択する

選択ツールを選択し¹、クローンを作成するオブジェクトを選択します²。



2 [クローンを作成]を選択する

[編集]メニュー→[クローン]→[クローンを作成]を選択します¹。作成したクローンは、オリジナルオブジェクトの前面に作成されるので、ドラッグして位置を変更してください²。ステータスバーで「クローン」と表示されていることを確認するといいいでしょう³。

CHECK

クローンはいくつでも作成できます。この手順でオリジナルから作成しても構いませんが、クローンをたくさん作成するには、作成したクローンを[編集]メニュー→[複製]([Ctrl] + [D])などで複製すると簡単です。

POINT

クローンのクローンを作成することもできます。

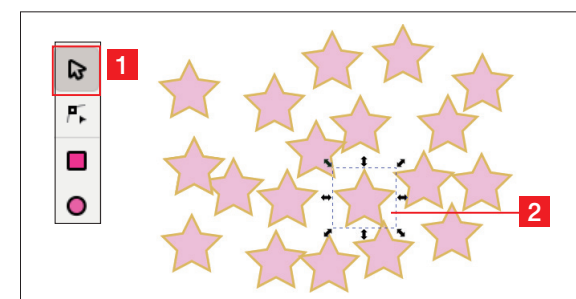
03

クローンのオリジナルを探す

クローンを作成すると、どのオブジェクトがクローンの元であるオリジナルオブジェクトであるかわからなくなります。オリジナルの探し方を覚えておきましょう。

サンプルファイル ▶ 09-03.svg

▶ クローンのオリジナルを選択する



1 選択ツールでクローンを選択する

選択ツールを選択し¹、クローンを選択します²。



2 [オリジナルを選択]を選択する

[編集]メニュー→[クローン]→[オリジナルを選択]を選択します¹。クローンからオリジナルが点線が表示され、オリジナルのオブジェクトが選択されます²。

CHECK

[オリジナルを選択]のキーボードショートカットは、[Shift] + [D]です。よく使うので覚えておきましょう。

12

選択範囲から プリントマークを作成する

家庭用プリンタを使用して裁ち落としするには、仕上りのサイズよりひとまわり大きい用紙サイズのキャンバスを使い、用紙内にプリントマークを設定してレイアウトします。ここではA4サイズのキャンバスにハガキサイズの仕上がりサイズでプリントマークを作成します。

サンプルファイル▶ 10-12.svg

▶ 長方形からプリントマークを作成する



1 ファイルを開く

プリントマークを設定するドキュメントを開きます**1**。ここでは、A4サイズのドキュメントに、ハガキサイズで仕上げたいオブジェクトが配置されています。



2 プリントマーク作成のための長方形を作成する

矩形ツールを選択し**1**、ドラッグして適当な大きさの長方形を作成します**2**。ツールコントロールバーで、ハガキのサイズである[幅]を「100」、[高さ]を「150」に設定します**3**。長方形は選択した状態にしておいてください。

3 プリントマークの作成方法を設定する

[エクステンション] メニュー→ [レンダリング] → [レイアウト] → [プリントマーク] を選択し、[プリントマーク] 選択して、[プリントマーク] ウィンドウを開きます。[マーク] タブを選択し**1**、設定するマークのチェックボックスをオンにします(「クロープマーク」と「裁ち落としマーク」のふたつで OK です)**2**。[位置調整] タブを選択し**3**、[クロープマークの設定] に「選択範囲」を選択します**4**。これで、選択している長方形にクロープマークが作成されます。[単位] に「mm」を選択します**5**。[オフセット] には、選択範囲からクロープマークをどれぐらい離して作成するかを設定します。通常は 3mm なので「3」を設定します**6**。[裁ち落としマージン] は、裁ち落としの幅を設定します。通常 3mm なので、[上][下][左][右] すべて「3」に設定します**7**。設定したら [適用] をクリックします**8**。長方形を基準に、プリントマークが作成されます**9**。



4 プリントマークに合わせてレイアウトする

プリントマークに合わせてオブジェクトをレイアウトします。スナップを使って、裁ち落としする画像は裁ち落としマークに合うようにレイアウトしてください**1**。また、プリントマーク作成用に作成した長方形は、不要なので選択して削除してください**2**。

POINT

プリントマークは、ひとつのドキュメント内にひとつしか設定できません。複数のプリントマークを作成するには、一度作成したプリントマークを [レイヤーとオブジェクト] ダイアログで [Printing Marks] レイヤーごと複製してから、ほかの場所にプリントマークを作成してください。この方法を利用すると、複数ページのドキュメントに、ページごとのプリントマークを作成できます。ページサイズと同じ長方形を作成してプリントマークを作成してください。